



農と食から地域をつなぐ

大学院 経営管理研究科

准教授 吉川 成美（よしかわ なるみ）

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1468 号室
Tel 082-251-9769 Fax
E-mail narumiyo@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 農業経済学、国際関係論、文化人類学

キーワード： 贈与経済、CSA（地域支援型農業）国際ネットワーク、アグロエコロジー、環境と農業

● 現在の研究について

これまで野菜の原産地を訪ねたり、自然資源の保全や持続可能な農業のあり方をテーマに国際協力の分野で研究調査をしてきました。

まず野菜の原産地の環境について「知る」ことから始まり、現在の生産、栽培への活用を図ること、そして希少植物や野生の植物の保存状態のよい自然保護指定エリアにおける自然保護と農家・住民の暮らしのバランスについて、文化人類学的な調査手法で調査・提言してきました。農業は、自然や天候という本来は制御しきれない要素を資本とし、自然からの贈与で成り立つ産業です。

高度成長期の日本は土地や労働力の効率向上や生産力増大を目指し、農薬・化学肥料の多投、機械化を推進する農家の近代化政策が急激に進み、自然生態系の汚染問題、農家・農家消費者の健康被害を引き起こしました。河川や土壌といった「自然環境」、人と人の「人間環境」、祭祀や伝統技術をも含む農村の「文化環境」、これら3つの環境が崩壊し、同時期に公害問題も深刻化しました。

こうしたなか生態系を保全し、人間と自然に安全な食べ物を生産し、顔の見える消費者に届けたいという農家と、信頼をベースに農家の生態系にやさしい伝統的な農法を支持し、食の安全性を確保しようとする消費者が直接「提携」し、市場を超えた地縁関係の模索が始まりました。農家と消費者の「提携」運動

は農業現場から食卓までのヴァリューチェーンを繋ぐ、欠かせない食料供給システムとして定着化しています。

現在、日本から端を発した都市と農村、消費者と農家の「提携」は、TEIKEI と呼ばれ、現在、アメリカ、イギリス、フランス、カナダ、オーストリアなどの欧米社会で飛躍的に数を伸ばし、アジアでもコミュニティレベルで特定の消費者と組み、食料の安定供給の観点のみならず、環境教育現場としても普及段階に入っています。自由貿易時代の家族農業・小規模農業経営の保護政策は各国の安全保障でもあるのです。海外の事例は、農業経営の一つの確実な手法として、個性豊かに進展しており、今や日本の事例数を超え、CSA(Community Supported Agriculture: 地域支援型農業)と呼ばれています。

● 今後進めていきたい研究について

世界資本主義システムの危機が露わになっている現在、日本に端を発する「提携」の技術や理念を日本から発信し、農家と消費者が共に農業を維持するという意味で、今後付加価値の高い、多用なメニューを提携していくべきでしょう。日本の農産物の価値の高さに加えて、教育・福祉分野も含め、持続性を担保し、CSA のネットワーク化とその有用性を検証していきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

2011 年震災以降、新しい提携を目指しプロジェクトをスタートした。農産物の提携を超えて、市民版のふるさと納税のように地域全体と提携するプログラムを試行中です。今後広島で活動を広げたいと思っています。